

企画展「鉱山の記憶 YAMA NO KIOKU」ガイド

江戸時代～明治時代にかけての、秋田の鉱山の歴史を紹介しています。秋田には全国トップクラスの鉱山が名と連ね、鉱石は海外にも輸出されるなど、重要な役割を果たしていました。絵巻・屏風・用具類・鉱石など多彩な資料がものがたる「鉱山の記憶」をお楽しみください。

トップクラスの鉱山が名を連ねた秋田県

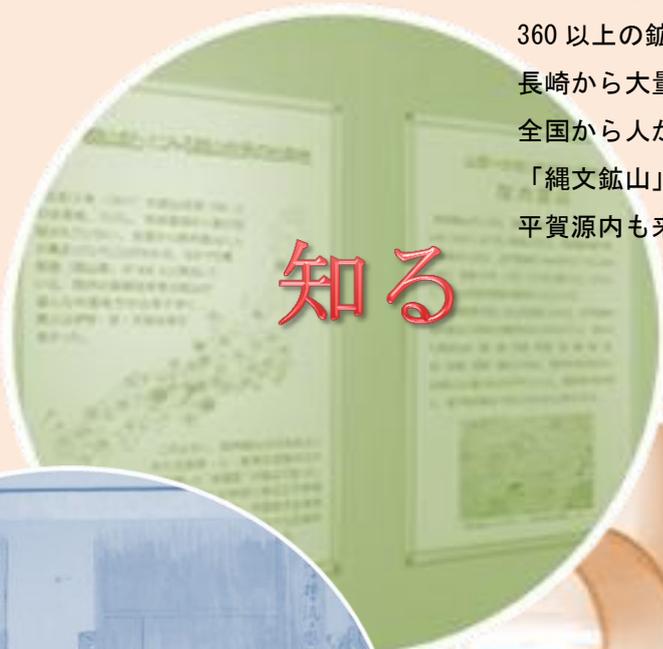
360以上の鉱山が

長崎から大量に輸出

全国から人が集まった院内银山

「縄文鉱山」

平賀源内も来た秋田の鉱山



知る



見る



体験する

地底にはたらく人々

美白の女鉱夫？

鉱山の作業絵巻

きらめく金・銀・銅

3mの木製ポンプ

鉱山の古写真

地獄絵

坑道くぐり体験

千両箱の重さ体験

知る



■トップクラスの鉱山が名を連ねた秋田県

秋田県には尾去沢・小坂・阿仁・院内などの大規模な鉱山があり、院内銀山は明治20年代に産銀日本一、小坂鉱山は明治後期に産銀額日本一を記録するなど、日本の鉱山史において重要な役割を占めていました。

■360以上の鉱山が

「鉱山紀年録」という江戸時代の古文書によれば、秋田藩領には360箇所以上の金・銀・銅・鉛山がありました。これらすべてが同年代に稼行していたわけではありませんが、秋田の鉱物資源の豊富さを物語っています。

■長崎から大量に輸出

「日本は資源の無い国」というイメージに反して、江戸時代の日本は、銀や銅の世界的な輸出国でした。銅を輸出するため各地の鉱山から長崎に銅が送られました。そのなかで秋田の鉱山の銅は圧倒的な量を占めていました。

■全国から人が集まった院内銀山

江戸時代初期の院内銀山は、人口が1万人程度にのぼったとみられ、城下町に匹敵するような都市でした。院内には全国各地から移住者が集まっていました。その理由は・・・

■「縄文鉱山」

秋田県内の縄文時代の遺跡で、珪質頁岩（けいしつけつがん）を採掘していた遺構がみつかっています。採掘跡は大きいもので深さ1m、幅7mもあり、集団で大量に採掘していました。その用途はいったい何だったのでしょうか？

■平賀源内も来た秋田の鉱山

エレキテルで有名な天下の鬼才・平賀源内は、安永2年(1773)に秋田に来たことがあります。鉱山の技術指導のため秋田藩に招かれたのですが、その結果は・・・

■豊富な解説

解説パネルでは、次のような話題を取り上げています。

大地のめぐみ／ “縄文鉱山”珪質頁岩の採掘
／ 院内銀山の勃興－金銀島ニッポンの鉱山
ブーム－ 「院内銀山記」にみる銀山住民の
出身地／ スレスレの金掘り経営／ 領主から
みた鉱山のうまみ／ 秋田の地方貨幣／
鉱山と山林／ 阿仁銅山没収の危機／ 海から
あがった尾去沢銅／ 秋田の銅でつくられ
た梵鐘／ 秋田の鑄銭、大坂を揺るがす／ 平
賀源内、秋田に来る／ 銅から銀をとる 加護
山製錬所の設置／ 明治維新と鉱山／ すず
む機械化／ 黒鉱の製錬／ 鉱山町の変貌／
秋田鉱山専門学校の開学／ 黒鉱製錬から金
属リサイクルへ



続きは展示室で！

見る



「尾去沢鉱山作業図屏風」(鹿角市教育委員会蔵)

■地底にはたらく人々



写真左「尾去沢鉱山作業図屏風」(鹿角市教育委員会蔵)、
右「院内銀山舗岡略絵図」(個人蔵)

地底にはりめぐらされた坑道のなかで、鉱石を掘り、わき水をくみ出し、重たい鉱石を背負って狭い坑道を歩く人々(写真左)、坑内の茶屋で一休みする人(写真右)など、当時の鉱山労働の様子が生き生きと描かれています。

■鉱山の作業絵巻

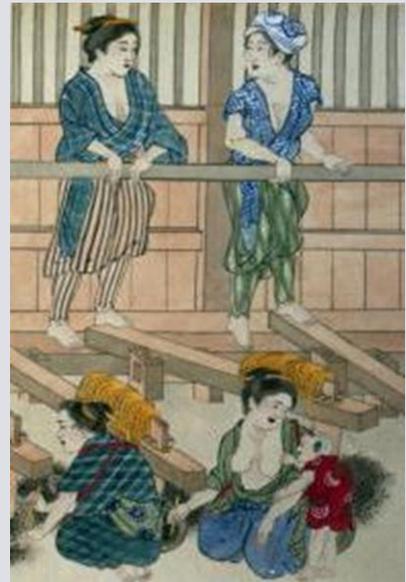


「阿仁鉱山作業絵巻」(館蔵)

阿仁鉱山の作業の様子を描いた絵巻には、坑道を出入りする鉱夫、鉱石を砕き、選別し、製錬し、牛や舟で出荷するまでの一連の過程が描かれています。

江戸幕府が発行した慶長一分金(左)をはじめ、幕府や秋田藩がつくった金銀銅貨を展示しています。

■美白の(?)女鉱夫



「秋田加護山鉱山全図並製鉱之図」
(秋田市立佐竹史料館蔵)

これは旧ニツ井町にあった加護山製錬所の作業の様子を描いたもので、素朴な筆致の多い鉱山絵巻のなかで、ひとときわ絵画性の高い作品です。

鉱山で鉱石を採掘するのはもっぱら男性の仕事でしたが、この絵巻によれば、炉の構築に要する素灰(すばい)の調製や、フイゴの操作などで、多くの女性が活躍していた様子が分かります。

■きらめく金・銀・銅



■ 3mの木製ポンプ



水揚げ（鹿角市教育委員会蔵）

尾去沢鉱山で使用されていた「水揚げ」は、中は空洞で樋のような形をしています。坑内の湧き水をくみ出すために使用されました。人力に頼っていた時代の鉱山労働の大変さが分かります。

■ 鉱山の古写真



写真提供＝院内銀山史跡保存顕彰会

明治中期の院内銀山の写真で、銅鉱山が日本一の産銀を誇った頃のもので、大小の建物がひしめき合い繁華な様子うかがえます。このほか小坂鉱山、阿仁鉱山の町並や作業風景の写真を展示しています。

■ 地獄絵



「庚申縁起之事」（個人蔵）

院内銀山の役人らが描かせた「庚申縁起之事」は約10mの長大な絵巻です。地獄で死者が裁きを受ける様子や、恐ろしい責め苦の様子が描かれています。

体験する

■ 千両箱の重さ体験

採掘された金属の用途の一つとして、貨幣材料としての使用がありました。箱の中に金はありませんが、金の「重み」を味わってみてください。



■ 坑道くぐり体験

江戸時代の坑道の狭さを体験してみてください。



続きは展示室で！